

発行/平成2年12月15日 No.20
えひめ地域づくり研究会議
(財)愛媛県まちづくり総合センター

まちづくりネットワークえひめ

舞 とうん

VOL 20

☆ 巻 頭 言 ☆

- 住民サイドの地域づくり
東京大学 教養学部教授
大森 彌…………… 2

● 特集 ● 実感！大地に生。 ● 集

- 麦播きの頃
重信町 牧 秀宣…………… 4
- ムラは女性の笑顔から
明浜町 片山恵子…………… 6
- 山に魅かれて ヤングパワー
久万町 白川哲也…………… 8
- 母ちゃんパワーでふるさと市
中山町 井上許枝…………… 10
- モウーモウー！誰かが言わねば
波方町 小池敏一…………… 12

研 修 レ ポ

- 人吉交流会…………… 14
- ひろしま交流会…………… 16
- 悠木の地球宣言…………… 20

ふ れ あ い 広 場

- リレーでちょっと一タク〈新〉
三崎、川之江から…………… 18
- 元気印レポート
劇団くまっこ…………… 19

REPORT

- 元気アップ交流集会…………… 22

研 究 会 議 News Letter

- 地域づくり学んで三年 よもやま話ノート
宮本俊一…………… 24
- まちセン 今昔物語……Part II
井口浩志…………… 26

Information

- 未公開すなっぶ…………… 28
- 舞とうんアンケート…………… 30
- TOWNタウン通信…………… 31



住民サイドの

地域づくりとは



大森 彌

東京大学教授

どの地域も、内から外へ・外から内へともとの人と情報が、出入する開放系であるかぎり、全国画一化の力に対して地域の個性を形成し維持することはむしろ難しいといわなければならない。しかし、流動や変化が常態であればこそ不動のもの・不変のものに意味や価値も出てくる。風雪に耐えて残ってきた地域の文化(方言・生活技術・祭り・芸能・建物・人びとの気風等)は、大事に守り育てられてきた地域の自然とともに地域の独自性を形成しているといつてよいだろう。

もともと全国画一化の動向は、平準化の意識(日本人ならどこに住んでいても同様の、同水準のくらしができてしかるべきではない

かという均霑願望)と結びつきやすいから、地域的個性をつくり出すにはひと工夫もふた工夫も必要となる。他所並み、世間並みになることでも、しばしば容易ではないから、その上に、他所とは、並みとは違うこと・もの・活動を作り出すには斬新な発想、すぐれた企画力、それにねばり強い実行力が要請される。

地域は、自然とものと人を基本的な構成要素とし、それらが結びついて出来事(活動)が生起し、その歴史を形作っている。自然とものはどの地域にもあるが、それらはある独自の姿・あり方をとっている。人はどこの地域にもいるが、そこである独自の生き方をしている。そこにはまだ拓かれていない可能性があるかもしれないし、現在のような姿や形のほかに別のあり方の可能性もあるかもしれない。この可能性を引き出していくことが地域づくりの基本なのである。それは他の誰のためでもなく、そこでくらす人びとの幸せのため

である。ある地域で住み続け生き続けていこうと決心している人びとが自分たちのために一番納得できる地域のあり方を求めて、工夫していく以外はない。

そのためにはまず地域の現実をしっかりと見る必要がある。地域を見る眼は冷徹でなければならぬであろう。冷静に深く鋭く見通すことである。地域の人びとが生きた表情をしていないのはなぜか、楽しげではないのはなぜか、いつも不平や愚痴をいっているのはなぜか、おおらかさがなくてギンギンしているのはなぜか、なにかにつけて人びとが役所・役場に依存し自立の気風に欠けているのはなぜか、外から開発の力が入ってきてむしろ自然と人びとのくらしが悪化するのなぜか、自分たちの地域にはなぜ他の人びとが訪れてくるのが少ないのか、逆に若い人たちが地域を去っていつてしまうのはなぜか、等々いくらでも問うてみることはできる。そうすれば、現在の地域にはどこかになにかが不足していることが発

通信交通網の整備・普及は、同じものや情報の利用を可能にするから、程度の差こそあれ、いわばブルドーザーによる地ならしのようにならんとするところで生活様式の画一化を促す。しかも、このものや情報の全国化は、その発送・発信地が東京などの大都会に偏在しているから、大都会を活動拠点としている人々の感覚・認識・志向・意図等がより大きな影響力をもって

す、我々だけの。も
 う他の人は、終わって
 しまっている。麦播き
 の時期には、もう麦播

「いちようの葉が黄色に色づい
 たら麦を播くええ時期じゃ」老人
 が教えてくれた。「今年はドウの
 花がだいふついとるけん、麦は豊
 作じゃ」と我々に夢をも与えてく
 れる。こんな時はトラクターを止
 めて、タバコを一服ふかしながら
 空をながめるのもいいものである。
 トラクターの音は仕事をしてい
 る時は気にならないが、ふと休も
 うと思った時は、妙にうるさく感
 じる。

きは終わってしまったているんです
 ね。我々だけだろうか？老人の言っ
 た事を聞いたのは・・・
 とにかく、終わればいいという
 百姓が多くなった。まあ、農業を
 する人が珍しいくらいだから、そ
 りゃ・・・そうだろう。米の値段
 が高かろうと安かろうと、時代に
 関係のない分野だ。
 米には出荷する時に、等級がつけ
 られる。一等・二等・三等・・・
 やはり一等がいい。しかし、今年
 は一等などと言う米は、ほとんど
 収穫できなかった。

ほとんど三等だったと言う。し
 かし、「肩をすぼめて歩いてい
 る人などお目にかからない」と言う
 事は、もうどうでもいいって事だ
 ろうか。

重信町

「麦播きのころ」

牧 秀宣

とにかく、米に対して、えらい
 重要な事のように新聞、テレビが
 言っているが、作っている人が、
 宮沢賢治の様におろおろ歩いてい
 ないんだから、米作りも変わった
 もんだ。

我々五人のグループ・重信第一
 機械利用組合（通称）は、こんな
 中で、米・麦を作っている。

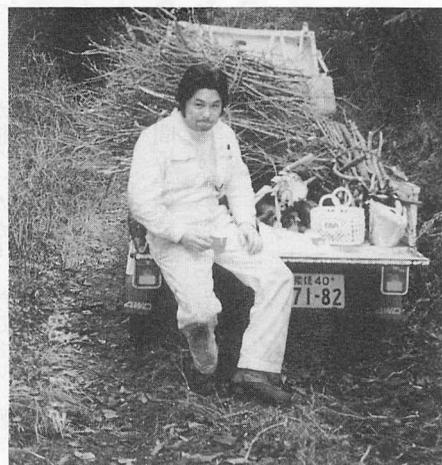
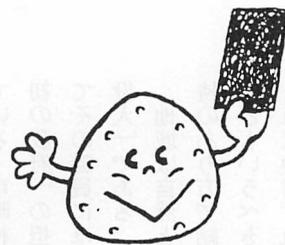
米を作る人なら、米と名の付く
 ものは何でも作る、麦も勿論。
 与えられたもので満足する連中
 じゃないから、「良し悪し」は自
 分達で判断する。すなわち、食べ
 てもらう人を十分に満足させる事
 ができない物は、作る事をやめて
 しまう。

「自然に逆らわず、作れるもの
 を作る。これしかない！」と飲む

たびに語り合っている。
 しかし、最近、農業が大きく変
 化して行くのを感じる。

人がいない。食糧自給と言いな
 がら、作る人がいなくなっている。
 これじゃ、自由化反対と言いな
 がら、アンバランスなものを感じ
 るのは我々だけだろうか。米も、
 麦も、ミカンも、野菜も、これぞ
 もか、これでもかと言う程、新品
 種が目につく。しかし、それを植
 えて育てて収穫するものがない
 のじゃ・・・どうしようもない。

自然の中で、良い空気をすって
 田舎（世間で言うカントリーライ
 フ）とやらの中にいて、何が邪魔
 するのか、解らないが、人がいな
 くなる。山間部は特にそうだ。
 見せかけのカントリーライフが本

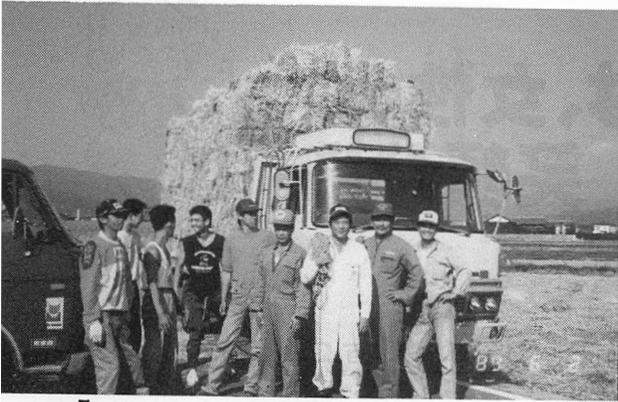


牧 秀宣さん

物らしく、本物はどこへ行ったやら・・・。
米や麦は、半年で収穫のよこびを感じるが、人は何十年かけないと一人前には育たない。

農業と名の付く関係者の人に、お伺いしたのだが、品種の事は育てた人間にまかせられるような農業方針を考えてもらえないだろうか。

若い農業者は沢山いるのだが、目のキラキラした夢をもった若者が少ない。どうしてなんだろうか？



若者の汗する農業

重信の後継者で毎年9月に『どかぼちやカーニバル』を開催しているが、この食べれもしない、売れもしないものがケッコウ人々を楽しませているのに・・・



食べる事のできる物や「きれいだ」と言われたり「かわいいね」と言われる物を作っている百姓と言う仕事からは、なぜ人が減って行くのだろうか？

私は、米や野菜の事よりも、もっとこの事に関心がある。

ここから考えていかなないと、何事もスタートしないはずなんだが・・・と刑事コロンボのように考えこんでしまう。

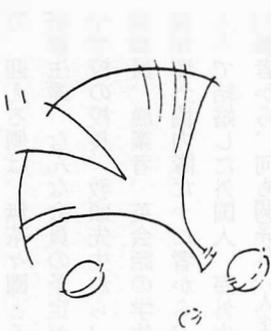
農業と言う仕事に就く前に、この事を考えられるような仲間作りをする事が、大切ではないかと思っ

ている。農業後継者や農業関係者は、もう一度、足元を見詰め直して、自由化問題・自給問題に取り組んで見てはどうだろうか。多少、時代のスピードに流されて、あせっている様な気がしてならない。

スピードも大切であるが、自分のスピードに対する感覚を知っていないと大事故に繋がるだろう。

我が町・我が故郷のスピードを自分達の体に覚えこませておかないと都会のスピードは解らない。

「バイテク」「ハイテク」と横文字で時代は進んでいるが、今一度、いちようの葉の色具合を気にかけるように、初心に還ることも必要かと思う。



「来年は重信で作った麦で愛媛のうどんを作るぞ!」



これが我々仲間の今年の夢である。一年にひとつでいい、夢を見られる仕事をやろうじゃないか・・・



ユニークな看板
牧農園



「村は、女性の笑顔から」



明浜町 片山 恵子

台風直撃の後、カメ虫・サビダニにやられて、実もまばらなみかんの木に登っていると、エンジン音と共に、下の方から何やら賑やかな声。二トントラックの荷台に二十名程の服装も顔もさまざまな外国人がみえる。「ハーン」と手を振ると、「オー」「コンニチワ」「ハーン」と、いろんな声はじけるように返ってきた。

みかん摘む手を休めて、木の下まで来た人達に話しかける。

“Where do you come from?”
“What is your name?”
“What kind of job do you have?”

片言まじりでも、心はすぐにツアー。夜の再開を約束して、仕事は早しまい。

夕食後大鍋のおでんと、手作りポップコーン・綿菓子を中心に、参加者何でも一品持参のサカナも揃って、ウエルカムパーティーは幕開け。きょうのゲストは、栃木県のアジア学院の研修生たち。シエラレオネ、ガーナ、ケニア、バンラデッシュ、タイ、フィリピン、フィジー、スリランカ etc. —

方、迎える側は、無茶々園とその研修生達、なんな会員の予定が、小学校の校長、教頭先生から、役員職員、漁業者、英会話の学生、青年海外協力隊だった者から、こちらで結婚した外国人、海外生活経験者から、何も関係ない人まで、わんさか集まって、深夜まで歌って、躍って、いろんなおしゃべりをしての大宴会。

つい六日前、三週間生活を共に



した、タイ人のプット氏のファインルパーティーと、長期と短期の研修生のウエルカムパーティーを終え、その十日前には、neapolis夫妻とその友人を迎えてのパーティーもしたばかり。

今年、例年の三割の収量しかみかんなはなかったというのに、この明るさは何なんだ、と、我が事ながらおかしくなってくる。

オレンジ自由化を始め、農業を取り巻く社会情勢はますます厳しく、ましてや、無農薬有機農法を目差し、七十軒もの所帯を抱えながら、試行錯誤のくり返して、経済の安定さえままならないというのに、ちっともその深刻さはない。

以前なら、胸ふさぐ思いで、胃でも悪くなんていたかも知れない状況なのに…。

そうなんです。ここ十年、この地は変わってきたのです。

数年前、なんな会の仲間と子連れで、山形、福島、東京へ行った時、明浜で見る海の何倍もの広さの東置賜盆地に仰天し、八王子の大学セミナーハウスで、ブースターを使って同時通訳を行う、国際的なシンポジウムでカルチャーショックを受け、最後に、松山空港から明浜へ帰るまでの時間のかかる事に、皆ノックアウトをくらってしまいました。

ところが、わざわざというか、御苦労にも、たくさんの乗り物を乗り継いで、ひっきりなしに無茶々園を訪れてくれる人達が、今までと異なる考え方や、ライフスタイルを持ち込んで来ました。そして私達が気づかなかった農村のよさと、そこで生きる事の幸せを教えてくださいました。

それがなかったら、猫の額程の、しかも労働のきつい急峻な段畑で仕事する事をのろい、テレビから

▼人づくりのわ



流れるコマージュや雑誌に、購買欲のみをそそれ、都会風に真似る事こそ文化的な生活であるような錯覚に陥っていたかも知れない。農業をやめる事こそが、幸せにつながる道だと思いついたかも知れないのに。

そうして、少しずつ物の見方、考え方、価値観が変わっていく中で、内助の功のみ強調されて、華岡青洲の妻たらん事を、暗黙のうちに押しつけられていた女性のあ

り方にも疑問がもたれ出してきたわけです。

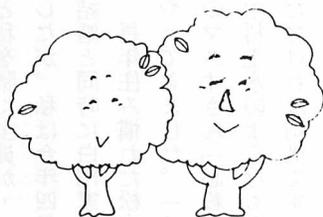
こうして「無茶々の里のルネッサンスを女性の手で！」を目標に結成された「なんな会」は、エコロジカルな町づくりをめざした無茶々園を影で支えるばかりでなく、共に歩む仲間として、資金援助を受けながら、活動の幅を広げ出してきました。

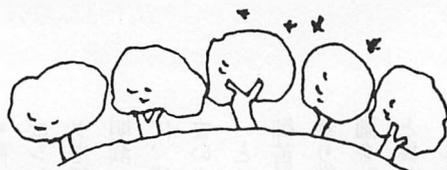
今年、無茶々園で配布する玄米の炊き方、試食会、そして、粉石けんと合成洗剤を使っている、洗たく講習会、廃油石けん作り、石けんを考えるシンポジウムの参加、給食についての集会参加の他、経営記帳の講習会やら、アンケート調査など生活に直接かわる事を中心に活動を行い、また消費者や、栄養士や調理士さんや生協や生活クラブの人との交流会もよく行いました。

来年は、無蛍光、無

漂白にこだわった、無茶々園ブランドのTシャツ・トレーナー作り、町内あげての海を守るため、粉石けんを使うシンポジウムも、婦人会や漁協の婦人部と共同でやってみたいと思っています。もちろん、食べ物には、一番こだわっています。自分達の村や町を愛し、緑や土や水を愛し守る事で、地球の一番の財産を失いたくないと思います。

そして、そのかけがえのない財産に囲まれて生活できる私達は、何にも替えがたい幸せをつかんでいると思いませんか？





山に魅かれて ヤングパワー!

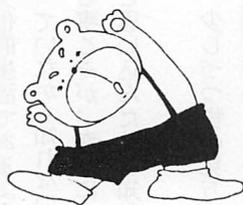
久万町 白川 哲也



★良材と休養の町

ウィーンノ、ウエーンノ、
ザザザンノ、ズドーンノ（暖
味な伐採の音）。
では、私の久万町と仲間を紹介
しましょう。

基幹産業である農林業の内、林業は、造林が進み、人工林が九〇%近くあります。そのうち七割がスギ、三割がヒノキです。久万林業の特色は、生産目標に従ったきめ細かい育林技術です。三十五年間で良質の柱材（三メートル）を二本採ろうというものです。また、久万町の気候は、夏は涼しく冬は寒冷で、「四国の軽井沢」とも呼ばれており、その恵まれた自然景観は、山村型リゾート地としての



★いぶき誕生

この久万町に、平成二年八月二日、久万町、一般農林家・森林組合などが出資する、第三セクター方式の林業会社「いぶき」が発足しました。

現在、いぶきの社員は私を含めて六名、二十五才〜三十一才までの若者で構成されています。私を除く全員が久万町へUターンしてきた人たちであり、元自衛隊・元とび職・元製紙会社・etc.

久万町出身とはいえ、林業の経験はゼロに近い素人の集まりなので、オノで足を切った、カマで手を切ったというような小さなケガは日常茶飯事で、不慣れた仕事に最初は木を一本倒すのにも苦労する有様でした。

何か月か仕事をした現在では、幾分マシになってはきましたが、一人前にはまだまだです。

「いぶき」では、今年度中は社員の養成期間として、町有林を中心に現場の仕事の研修をし、来年度四月より営業活動にはいって、

一般林家の仕事を請け負っていく予定です。

★入社の動機

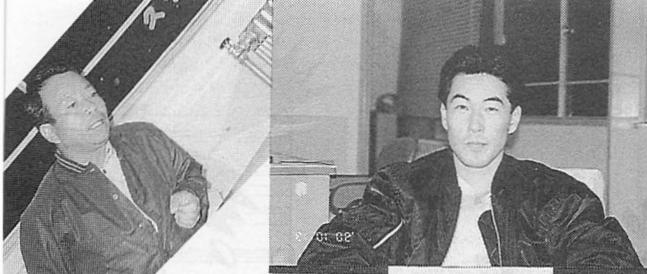
さきほど私を除く全員が・・・と書きましたが、私は今年四月に縁あって結婚と同時に白川家の養子となり、長年住み慣れた松山より久万にやってきました。「サザエさん」のマスオさん「必殺シリーズ」の中村主水のようなものと思っただけならば結構です。家の仕事の手伝いをしながら（農林業）この久万町へ来て何の仕事に就こうかと考えている最中に「いぶき」の発足を知りました。

入社を決めた動機というのは、
(1)久万町の一員として町内で仕事に就きたかった。(2)久万町は林業の町だし、家の仕事の関係もあって林業を勉強したかった。(3)第三セクターという事で経営に自治体も加わっており、安心して就職できました。ということですが、

以前の職で得た技術を生かしてということも考えましたが、「いぶき」は新しい会社でもあり、第一期生ということでもやりがいも



左:石丸課長さん(まとめ役)
右:白川さん(リーダー的存在)



あるのではないかと思
い、入社しました。転
職するに際して職種に
はこだわりませんでした
したが『まさか私が木をきるように
なるとは思いませんでした』とい
うのが実感です。

★林業・体感

現在、全国的なことと思います
が、農林業などの第一次産業の後
継者や、土木・建築などに従事す
る「ブルーカラー」と呼ばれる仕
事に就く人が減少しています。な
ぜかは説明する必要があります
もないでしょうが、
「三K」という言葉
を知っている方も多
いと思います。「き
つい」「汚い」「給料
が安い」で三Kそれ
にプラスして「危険」
「暗い」「休暇がとれ
ない」で六K、とも
言います。林業とい
うもののイメージも、
まさにそれでした。

- では私たちが実際に林業に従事
してみてもうだったかと言いま
す。やっぱり重労働です。つらい
仕事に変わりはありません。では
なぜ毎日元気で働こうというやる
気が出てくるのでしょうか？その答
えはうまく言えません。かわりに
現場での生の声を聞いてください。
 - 空気のきれいな所で仕事ができ
るのは体の為がいい。毎日が森
林浴みたいなものだ。
 - 同年代どうして話も合うし、人
間関係も楽。
 - 自分の産まれた所で働くのは
やっぱり落ち着く。
 - 両親の面倒を見なければいけ
ないし、家の後を継がなければい
けない。
 - 山に入ってしまうと自分のペー
ス・段取りで仕事ができて、気
が楽。
 - 木を伐倒するのがおもしろい。
 - 間伐してきれいになった山を見
ると満足感がある。
- というように訳で、少しは理解し
ていただけたかと思えます。

★期待と不安の中で…。
林業先進地である久万町もこれ
まで、町内の山仕事は、森林組合
の労務班が日当制で一手に請負っ
ていました。

しかし、その労務班も、最盛時
一〇〇人近くいた者が、高齢化と
後継者不足などにより、六〇人前
後、平均年齢五十七〜八才となっ
ており、このままではあと一〇年
経てば誰も山仕事をする人がいな
くなるという危機的状況にありま
す。

林業の町といわれる久万町に、
その後継者である若者がいなくな
るということは、今後の町づくり
の上からでも問題であり、地域ぐ
るみで若い働き手を育てていこう
という動きが「いぶき」発足にあ
らわれたのだと思います。

従来、家内作業であり季節労働
であった林業を、会社組織とし、
通年雇用・各種保険完備としたの
は全国でも珍しく、各地からの視
察や問い合わせが相次ぐ中、テス
トケースとして注目されています。
また、「いぶき」発足に際して久

万町民の方々の関心は高く、まだ
営業活動前なのに「うちの山をやっ
てくれや」という話が度々きます。
その一方で林業が重労働であるこ
とを知っている人や、木材価格の
低迷している現在「本当に商売と
してやっているのか？」「最近
の若者が辛抱できるのか？」とい
う心配の声があるのも事実です。
久万町民の期待と不安のなか「失
敗は許されない」という決意をも
って、頑張りたいと思います。



※ 実習風景

があちゃんパワーで 「ふるさと市」



中山町 井上 許枝

伊予郡中山町は、県都松山市から国道五十六号線を南に、車で四十分程走った所にあり、人口五千五百人余りの周囲を山々に囲まれた農山村です。

主な産業は、農業で特産中山栗を始め椎茸・キウイフルーツ・タバコ・野菜等の栽培を行っております。

緑豊かで蛭が飛びかう町、素朴で人情豊かな反面、消極的な人間性をもつこんな町にも、一大転機がおとされました。それは、昭和初期からの先人の努力の賜物であり、町民の念願であった、昭和六十一年三月の「国鉄内山線（現JR予讃本線）の開通」でありますし、また、そうした交通体系の整備と併せ将来の町の特産品づくりや、一・五次産業振興を狙いとした「中山町特産品センター」の同時期の開業でありました。

◎最初は回りにリードされ：

その頃、「むらおこし」の一環として、中山町特産品開発委員会が設置され、町をあげて特産品づく

くりが始まりました。



この看板を目あてに

そうした背景もあり、農家のかあちゃん達もこの大きなうねりに巻き込まれ、何か手ごたえを感じていました。その時は、指導者をはじめ皆が手さぐりの状態でありました。その内に何かが起こるのではないかと言う期待と、何かができそうだと希望で夢中になり、町内のあちこちのグループで特産品らしき物が生まれ始めたのです。

ある視察研修会で、自分達が常作っている草もちやまんじゅうが商品として立派に通用している

のを見て、これが手づくりの良さだと自信が湧いてきました。

◎消費者の意見を最優先！

そして昭和六十一年六月、「中山町ふるさと市」がスタート。当初は月二回の開催でしたが、二年目には、お客さんの要望もあり毎週日曜日開催しています。

盛況な「ふるさと市」



会の運営は、運営委員を中心に十一グループ、七十名の会員で組織しています。

そして、商品の出荷は、会員が代表者に連絡すれば、自由に出荷でき、終了時には、出荷者が空箱や残品の確認に集まります。



前列中央・井上さん

けており、ふるさと市の新商品として人気を博しています。

また、加工食品についても、同栽培の野菜を使った漬物等、栽培と加工の両面から消費者ニーズに合った商品づくりを心掛けています。特に加工品は、お客様に安心して召し上がって頂ける事が最大要件ですので、営業許可のある施設で作った物だけを販売し、また定期的に試食会を実施して品質の安定向上に努めています。

◎お客様は神様です

そして日曜日の朝、軽トラに山積みされた野菜達が到着。早速、取りたての新鮮野菜、加工食品、漬物等のふるさと中山の味を所狭しと陳列開始・・・。

開店をまだかと待っている町内のおなじみさん、マイカーやJRL利用の常連さん、そしてある時は県外からの観光バスなどによって、最近が開店から閉店までひっきりなしに訪れていただく人達でいっぱい！

五年前のスタートの頃、誰が今

日を予測し得たでしょうか。

この四年間、かあちゃん達の熱い思いを多くの関係者や人々が支援して頂き、その声援にグループ員が応え、一つの大きな輪として発展を続けてきたのです。第一にこの関係なくして今日のふるさと市はなかったと思います。

第二には、グループ員の自主性だと思えます。やる気を持って自分達の出来る事は自分達でやろうとする気構えから更に、ふるさと市だけにとどまらず、各種イベントや販売先をグループ員自らが開拓して行くパワーは従来の婦人活動にはなかったことだと思えます。



第三には、お遊びではない、小さいながらも一つの産業として考えているという事です。今もって「むらおこし」の本意はつかみかねていますが、グループ員達は、ふるさと市を各自の生きがいと託した経済行為として、家計収入の定位置を占めるようになって来ているのです。



今こうして私達が活動できるのも、消費者の皆様をはじめ地域の皆様の御協力、御理解のおかげと心より感謝しています。今後も初心忘れることなく物のサービスタだけだけでなく心のサービスにも心掛け、地域に根ざし、お客様に喜んでいただける「ふるさと市」づくりをして行きたいと、ふるさと市会員一同心より願っています。また、私達婦人の力で少しでも地域の産業振興のお役に立てたらと思いがら一歩一歩前進して行きたいと思っております。



私は現在波方町で三百頭余りの肉牛を肥育している。高縄半島の先端である。高縄半島の先端で土地（耕地）が狭く、

そして地価が高い。凡そ農業専業で生活出来る様な所ではない。しかし考え方に処ればこんないい所はない。気候温暖で台風等の災害等も極めて少なく、地価が高ければ高いなりに坪単価の高い商品作りを目指して、（例えば牛とか、繭とか。勿論、施設が必要であるが）超集約・高技術で取り組めば、アメリカの三百町・五百町歩の経営者以上の利益をあげる事も可能であると確信している。

※リゾートの影響

現在、波方町では、異業種の成年（四五歳まで）が、自主的に集まり、「まちづくり委員会」を結成している。私もその一員であるが、今、話題になっているのが、県が認可したリゾート問題である。ゴルフ場、マンダラ村、ホテル、展望台等々、色々な案が出されているが、猫もシャクシもりゾートと言った感じで、本当に地域住民の為になるのか否か、じっくり考えてみる必要がある。「地域の活性化」には、たとえば人口を増や

すべきとか、各種イベントの開催、工場を誘致して雇用を促進すべきとか、色々きれいな事を言っているが、もっと冷静になって、足元を見話める必要があると思う。

行政としても、何か事業をしなければいけない事も解るが、将来に向けて、ほんとうに必要なモノであるのか・・・維持管理は、償却が済めば全部町民税に振り掛かってくる可能性もあると言う事を・・・。昨今、農業者人口は激減している。その背景には、リゾート、町施設等々によって犠牲になるのは殆ど農地である。

結論を先に言うと、十町歩の農地を潰して住民の為？の施設を作れば、十町歩の農地を造成して、農業者に返してほしい。

行政も農業後継者を育成する立場にありながらその逆をしている。リゾート施設を作って、町の活性化とか町おこしとか言っても、地元住民は、ほとんど施設を利用しないのが、リゾートの実情であると思う。更に交通公害、空岳公害、犯罪の多発等々、マイナス

面も充分考慮しなければ、後で泣くのは、地元住民である。

そして、農業後継者が激減する根本的な因であると思われる。

農業後継者が減れば、農業者人口が減る。そうなれば選挙の農民票も減ると言うことである。

※消費者もいっしょに考えよう！
いまや、牛肉やオレシジの自由化も秒読段階となっている。

我々がいくら反対運動しても、焼石に水であり、このままでは、近い将来、最後の砦である米（耕種民族の皇室行事にも出てくる）も、自由化になる確立が高いと思われる。

資源の少ない日本で国際競争に勝ち抜くには、原料を輸入して高度の技術力で加工してそれを輸出し、稼ぐしか伸びる道は無かったと思うが、その見返りとして、生命の根源である食料を七十%も他国に委ねている。

最悪の場合は、いくら金があっても食糧が無くて、餓死する時代が来ないとも限らない。

特 実感！ 大地



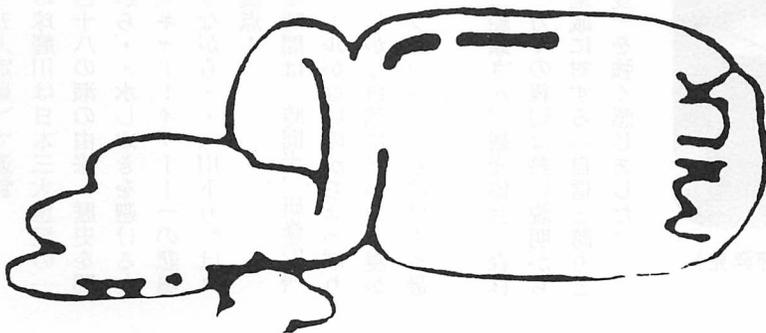
↑ 元気な小池さん

農業漁業等の食糧生産者は、絶対に餓死しない。自分で生命の維持に必要な産物を生産しているからである。要するに、世界一の食糧輸入国になっている日本、これを容認しているのが殆ど消費者である。だから、牛肉も、オレンジも、米も、自由化を反対するのは、生産者だけではなくて、消費者自身であると思う。「八〇%の国内自給をしなければ、他国に対してNOと言えない。」とも言われている。第一次産業は命の源であることを忘れてはいけない。

※人づくりは教育から
最後に、『まちづくりは人づくり、人づくりは国づくり』と云う事であると思う。人づくりと言えば、教育、特に義務教育が基本であると思う。現在のようない、売り手市場では、有能な人材は他の大手企業に行ってしまう、ほんの一部しか、情熱をもった先生が出ないと思う。こんな事では、日本の将来は無い。有能な教育者がいて、有能な人材が培われる。
現在波方町でも、塾が乱立している。塾は、金儲け、能率主義、つまり、資本主義社会とするならば、学校は、社会、共産主義社会と言いつける程の差になっている感じがする。狂育であると思う。学校も、暗に塾を認め、推薦し、塾生能力に比例した教育をしている嫌いが有ると思われる。
学校で絞られ、塾で絞られ、親からは過大な期待を受け、何でまっとうな子供が出来るか！人を蹴落としてでも、自分が伸びようとする、間違った社会を容認している今の社会風潮に対して、もっと、

思いやりと気くばり、互助とか言うような人間性ある、教育をするべきと思う。今の教員の給料を倍にして、塾廃止法でも作って、せめて、義務教育期間だけでも、伸び伸びと将来の日本を背負って立つべき人材の育成を今から作っていく必要がある。芋掘りしたり、稲刈りの体験実習しても農業の心は、半日や一日では解らない。基本的に普段の教育が大切であると思う。それで初めて、まちづくりが出来て、地域が活性化し、いい国づくりになると思う。

輸入肉には負けないモウモウ！！



川を見るのに川の中に、どっぷりと漬かっていたら川は見えない。川を見ようと思えば、山の上にあがらねば、本当の川は見えない。この発想が、今のまちづくりに必要であると思われる。

ひと・もの・文化

人吉・交流会

(財)愛媛県まちづくり総合センター
宇都宮 正 昭



十月三十日〜三十一日の二日間、我々が訪れたのは人吉市。

「人吉」ってどこ？

宮崎から日豊線でのどかな汽車の旅。いよいよ近付いた頃、「日本三大車窓展望の一つと言われ、天気の良い日は桜島が見えますよ」と、親切な車掌のアナウンス。しかし残念ながら桜島は顔を出してくれません。

そして「おこば駅」という所では、「スイッチバック」と「ループ」を併用した全国でも唯一の線路方式を体験・感激！（これはS/L時代に、勾配がきついので進行方向を変えながら、ジグザグに運転する方式）

宮崎から揺られること三時間、辿り着いたのは熊本県・人吉市。人口四万二千人、一般的な農林業を主体とした静かなイメージの町。あの川上哲治氏の郷里である。

人吉の第一印象は◎、最初に話した人が愛嬌のいい、お人よしな女性でした。

そうそう！ここで開催された「地域づくり西日本交流会議」に

参加したのです。（昨年は松山市で開催）

「西日本一」であるに拘らず北海道から沖縄まで、総勢三百六十五人の参加。「何かを吸収して帰るぞ」と熱気ムンムン。

▼川の流れに・・・▼

閉会式の後には早速全員が各分科会場へ移動。

「見て、触れて、体験する」テーマどおり、実際に現地を見て地域づくりについて考えようと言う企画です。

会場は人吉市だけでなく、近隣の町村にまたがり、人吉・球磨地域を広域的にビジュアルしようと言う意気を感じられます。（県内でも観光パンフレットは多いが・・・）

クラフトパーク・蔵めぐりコース他、六コースのうち、自然を活用した村おこしのノウハウを理解しようと「くま川下りコース」に参加したのです。

内容は「川下り」と「球磨洞の探検」（鍾乳洞）。

観光客は年間十四万人。三十六

艘（十五人定員）で運営。

この球磨川は日本三大急流の一つ。四十八の瀬の由来・歴史を聞きながら・・・水しぶきを避ける女性の「キャー！キャー！」の悲鳴を聞きながら・・・「川下り」はスリル満点！

所要時間は一時間半、研修の為にアルコールがないのがちよっぴり残念。しかし自然にどっぷり浸かり、リフレッシュするにはもう最高！

特に船頭さん、観光協会、森林組合の方々の親切な熱い説明からは、地域に対する「自信と誇り」と郷土愛」を強く感じました。



球磨銅入口(S48.愛大探検部発見)



行ってみよう！
球磨川下り

自然が豊富な所は各地にありますが、この川下りでは、「自然と歴史の重み」プラス「住民の熱い想い」が感じられ、現代版の観光地とは一味違うんですよ。

いわゆる「観光の素材」は至る所にあります。これにどのような付加価値をつけ、観光資源にしていくか。要するに遠路から来た人々の心に他の観光地にはない有形

無形の何か(オンリーワン)を・イメージさす物を創造しなければならぬでしょうね。

これだけ全国の市町村が地域づくり目指して熾烈な競争をしているのだから、今、オンリーワンで目立っている所でも「安泰」という文字はないですね。幾ら余暇の時代到来といっても需要の絶対量には限度があると思います。

▼そして全国版

仕掛人登場▼

有名なパネラーの中から代表者の切り口を
・
・

☆鈴木輝隆氏☆

「山梨県・落穂拾いの
会会員」

全国で約三百人のメンバーで組織しており、地域づくりに対して情報交換、賛助、そして遊びの部分も含めて交流している。

地域を活性化さす為

には、異質なものをに入れて、理解しようとか、色々経験すればするほど、エネルギーが湧いてくる。

地域で活動しながら地域を越えた人間関係を築いていかなければ、これからは戦えないでしょう。

☆前田晏次氏☆

「鹿児島県・ミニ独立国さつま国
連会議」

昭和五十八年、「パロディ王国」

によるムラおこし運動を始める。現在十七カ国が組織化。異業種の集まりで住民パワーによる運動。息の長いムラおこし運動をするためには「面白半分、真面目半分」の遊び心が大切である。

人の輪と和が広がっていかないと孤立・消滅してしまふ。そのためには民間主導型・行政サポート型が理想である。

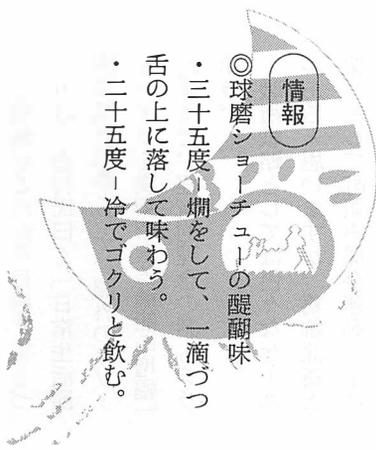
▼つ・ぶ・や・き ▼

この会に参加して、地域づくりのうねりとその一方ではシステムが大きくなりすぎて、一方からのリアクションになっているな

ーと感じつつ・・そして人吉市が媒体になり、色々な地域との出会いを通じて、「環境・人・伝統・文化」等、色々な要素があり、地域づくりには様々なパターンがあるものだと考えさせられました。

しかしながら、隣がやってくるからではないにしろ、あせっているなあーと思われるアクションが多い様な気がしますが、皆さんはどう感じられますか。

それでは、本番である交流とネットワークづくりのための手作りの「空極の飲み方学習」の始まり、ささー皆さんもどうぞ！



・三十五度、棚をして、一滴つつ舌の上に落して味わう。
・二十五度、冷でゴクリと飲む。

ひろしま

大好き人間交流会

in 鞆 とも

(財)愛媛県まちづくり総合センター 山岡 強

初めて訪れた名勝「鞆の浦」。

迎えてくれたのは、雨と風、そして広島県を中心としたネットワークカーのあの顔この顔。あいにく持ち合わせの傘がなく、ズブ濡れになりながら会場に向いてみると、会場内はすごい熱気ムンムンで、ついさっきまでの寒さも忘れ、かえって汗ばむ程。そして「ひろしま大好き人間交流会in鞆」は開会と相成りました。

▲始まり始まり▼

先づは、付きモノである基調講演が、(株)小布施堂代表取締役・市村次夫氏より「新たな歴史の創造く小布施の町並み修景」と題してイッパツ。

私は勉強不足でよく知らなかったのですが、信州の山の中の町・小布施は「葛飾北斎と栗の町」として有名なようです。

市村氏のまちづくりへの取り組みは、町外から見たイメージと、町内景観面の整備不足とのギャップを埋める事から始まりました。

当初いけば問題となったのは、全国的に見て価値のある歴史的建造物(北斎館等)の保存、あるいは修景を目的として町が取り組んだ町並み保存運動において、それが即、観光ビジネスに結びつかつかないか?という事だったそうです。しかし当時(一九八〇年代)が豊かな時代とされ、色々な価値を自分達で決める事が出来、思い

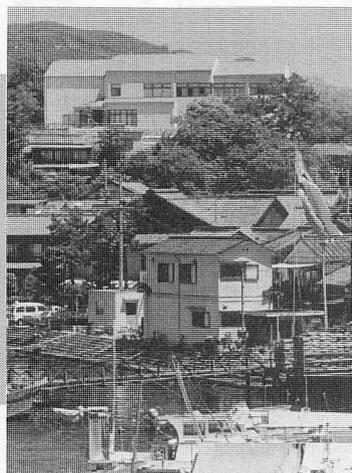
どおりにいなくても、それなりに調和のとれた建物群が出来るとそれが話題となり、コミュニケーションの道具としても利用されるようになりました。

そして今、新しい風として巷でトレンドイヤーになっている事があって、それがなんと、小布施のある喫茶店でスパゲッティー(味はそれ程でも...)を食べる事なんだそうです。それもかなり遠方から来るそうです。愛媛から行くとは思いませんが...。これらの事が、先程の町並み保存運動による経済的効果だとしたら、

観光面から見てもかなり成功したと言えるのではないのでしょうか。小布施はまだまだあらゆる

可能性を秘めていると思います。小布施がこれから目指すまちづくりは、市村氏曰く「日常生活圏内の気分転換として、圏外のリゾートライフを満喫できる機能の増幅」だそうで、経済的理念の話もチラホラ。

戦術戦略としては色々なケースがあると思いますが、葛飾北斎と栗、そして町並み保存運動(主に修景)を中心に進められてきた小布施のまちづくりは現在も進行中です。そして、これらにとどまる事無く新しい試みとして『花の町』づくりの運動も始まっているそうです。そのうち小布施から『花』の便りが届くのも、そんなに遠い日のことではなさそうです。

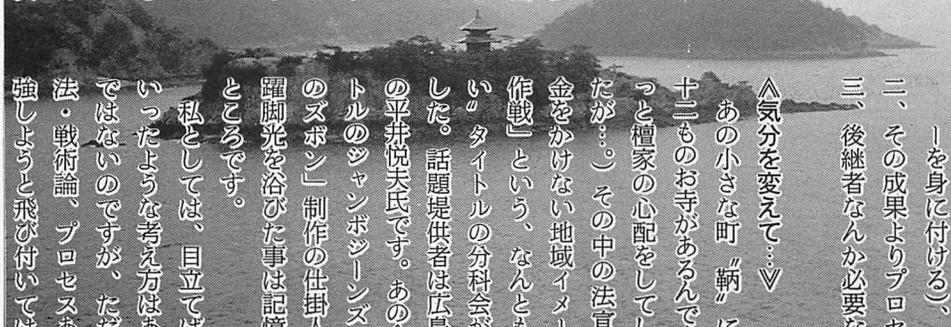


静かなたたずまいの鞆の浦

さあ、舞台はできました。コミュニティケーションのエリアを広げる為、小布施の挑戦はまだまた続きます。

△この辺でジャブを：▽

「ふるさとづくり対談」の中で、
輶出身でパネラーの一人である北村浩子氏より輶の紹介を兼ねて御本人の取り組みが紹介されましたが、いやあー本当に輶は静かでない所でした。私みたいな気の早いオッチョコチョイには、人生を振り返り、心の洗濯をするのにベストポジションだった様な気がします。まあ遊びで行ってるんじゃないんですから、そんな事はどうでもいい事ですので本題に戻りますが、この「対談」の中からウルトラC的な楽しい話を聞く事ができたのは収穫でした。というのは、全体を通して言える事なんですが、この様なシンポではよくありがちな着飾った言葉ではなく、言いたい事を本音の言葉で聞けたことです。他のパネラー、前出の市村次夫氏、猪爪範子氏、加藤新氏の論議の中から結論！



一、反骨・ハングリー精神(足を引く張る人間に負けないパワーを身に付ける)。

二、その成果よりプロセスが大切
三、後継者なんか必要なし

△気分を変えて：▽

あの小さな町「輶」にはなんと十二ものお寺があるんです。(ちよつと檀家の心配をしましませんが…) その中の法宣寺で「お金をかけない地域イメージアップ作戦」という、なんとも「おいしい」タイトルの分科会が開かれました。話題提供者は広島県新市町の平井悦夫氏です。あの全長ハメートルのチャンポーンズ「ガリバーのズボン」制作の仕掛人として一躍脚光を浴びた事は記憶に新しいところです。

私としては、目立ちは勝ち！といったような考え方はあまり好きではないのですが、ただ、その方法・戦術論、プロセスあたりを勉強しようと飛び付いてはみましたが、結局基本となる理念的なモノは聞き出す事は出来ませんでした。

そして毎度の事ではありますが、行政への批判がピークとなったところで安藤周治氏の名コメントで、丸く納まりお開きとなりましたが、後味が…。

△待ってました！▽

こんなシンポには、やっぱりコレがないと盛り上がりません。言わずと知れた交流会です。真面目な意味でこの時が、我々の友好、ネットワークを広げるために一番大切な時間となるのでは？。そして、その蓄積されたネットワークは、我々の活力の源となるのです。

夜も更け、酔いのボルテージも最高潮となったとき、階上ではナベの準備もしてあるとの事。今日は体調も絶好調だし、勇んで会場におもむけば、なんとそこでは夜ナベ談義の真っ最中。

「そうだった、これは広島だったんだ！」と納得して私も参加して、「あーだ、こーだ」と舌の回転もいいこと。

窓の外には、ライトアップされた弁天島が浮かび上がりちよつとセンチな気持ちに、今日爆発させたパワーを補充するために、日付も変わった頃一夜の休息に…。明日も頑張ろう。



分科会会場(法宣寺)
↑ 発想の転換!

◆「吉田村研修記」

三崎町

横山 忠文

町のお世話で組織した、地域活性化のための研究

塾である「さきがけ橋塾」も早いもので結成からやがて一年が過ぎようとしています。塾生は町内在住の農水商工従事者及び公務員で構成されており年齢も二十代から六十代までとその幅は広い。

私もその塾生の一人で、たまたま年齢が若いという理由で塾長にかつぎあげられてしまい、以来苦悩の連続であります。

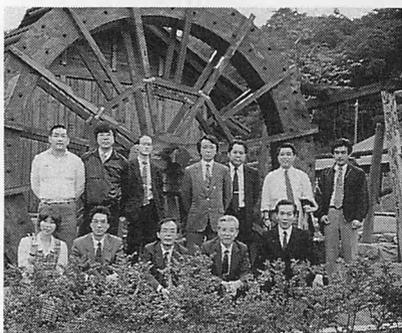
秋の気配が立ち始める頃、我塾のアドバイザーとして大変参考になる助言を下さっている「鉄の歴史村」で注目されている島根県吉田村の藤原洋先生を訪ね、村を視察させてもらおうという事になり、十月二日～四日にかけて出かけることになりました。

「ステキな所にしたい」だから一級品の村づくりを考える藤原先

職業	三崎町商工会 経営指導員
趣味	釣り
家族	妻、長男、長女の4人暮らし

生の考えは現地を視察するうちに次第に理解できてきました。鉄の歴史という文化に支えられた自立した村づくりに取り組んでおられる模様がよく解りました。

近年、リゾート開発が地域の活性化策としての特効薬であるかのように全国的にブームになっているようだが、地域のもつ歴史、自然、風土等を無視した画一的な開発では決して活性化にはならないであろうし、未来への遺産になり得ないであろうことを強く感じ、吉田村を後にしました。



吉田村にて 後列中央が横山さん

※次号は、

堀田建設(株)岡崎直司さんです。

◆「カヌー」しよう!

川之江市

宇高 英治

ある日突然、友人と二人で、カヌーを買う事にした。型はオープンタイプのインディアンカヌー。

しかし、手持ち三十男の財布は、予想以上に軽く薄い。そこで二人で即席デザイン事務所を開店、広告や、パッケージデザインにとり組んだ。同時に、カヌーの組み立て場所を探し、友人から友人へとお願ひコールに走る。

いざ組み立てを開始すると、友人知人が、次々に現われては、ひやかして行く。中でも伊予三島のF医師は、カヌーで自然を楽しむ大先輩、おもしろい話を聞いたので誌上を借りて大紹介。

カヌーは上流から、だんだんと下がってきて小冒険をするあたりに、遊びと旅の醍醐味がある。一方川辺で、そのカヌーを見ている人々は、上流から流れてきた、カヌーイストに対して友好的に接し

てくる。そして、その時ほとんどの人々は、上流はどうだったのかと尋ねるらしい。決して、今いる川辺が一番いいだろうとは、言わないらしい。常に川の流れの上流を気にして、上流の情報を求めている。

この話を聞いて、日本人らしさに妙に納得すると同時に、自分の過去を反省したりもする。とにかく水面上から陸地を見る今までと違った視点を持てる事を楽しみに、春の進水式を目ざして板を一枚つつ貼り合わせている。



写真より似てます (本人作)

※次号は、私の絵の先生である

高原音さんです。

劇団「くまっこ」

久万町

◆国民文化祭での熱演

幕がおけると会場から割れんばかりの拍手が沸き起こった。インタビューに答える劇団員の目からは、感動と喜びの涙があふれて、まさに完全燃焼のものであった。

劇団「くまっこ」が、第五回国民文化祭出演依頼を受けたのは九月の中ごろ。宇和島市出身の歌手土居祐子さんとのミュージカル共演ということで、数ある県内の劇団の中から選ばれた。

元気印レポート



しかし、団員の間では、やるかどうかについてはいろいろともめた。けれども、台本を久万弁に書き直して、折角のチャンスということで練習を始めたのである。

◆練習始め

私達が練習風景を見学に出かけたのは十月三日。初練習の日だった。「くまっこ」は、六年前の昭和五十九年に座長の田中茂さんを中心にして結成された。もともとは地元で伝わる川瀬歌舞伎を伝えようというものであったが、歌舞伎は難しいということで身近な演劇に。そして自分達で脚本を書き、「久万山騒動」に代表される地元の伝説や民話などをとりあげている。やがては、町民みんなが参加しての「久万山ファンタジー」を夢見ている。

三々五々に劇団員が仕事を終わって集まってくる。十代から四十代までと幅広く、職業も製材業・花店・文具店・看護婦・公務員などさまざま。何回も書き直された台本をもとにしての本読み。全体の流れを舞台で行なう。「これっ



晴舞台（県民文化会館にて）

院している座長田中さんの分まで頑張ろうと、団員の演技に全力投球の熱い想いを感した。

◆本番はこれから

劇中での歌「運がよけりゃ運がよけりゃ・・・」を聞きながら、「くまっこ」は確かに運がよかったのかもしれないが、地道に活動を続けてきた成果だという気がする。

というものは決してなく、団員がそれぞれに意見を出しあいながら作っていく。

◆本番近づく

二回目に訪ねたのは二週間後。主としてミュージカルの部分の練習で東京からの振り付け師によってさらに磨きがかかり、本番はもう十日後に迫っていた。

十月二十八日の県民文化会館メインホールは満員。午後三時から予定通りに、劇団「くまっこ」の舞台が始まった。途中で倒れて入

町内にあるものを題材にして演じることにより、地元への愛着とネットワークづくり、楽しい場の創出など多方面に影響を与え続ける。若年層や中年層など年令を越えての人間関係が、これからの町への大きな原動力となることは間違いないであろう。そういう意味では、本番はまだこれからだ。

（助愛媛県まちづくり

総合センター

豊田 渉



●小さな国と書いて…小国町！

このところ地域づくり、まちづくりの話題に必ずといっていいほど挙がってくる。全国まちづくりの先進地域として、雑誌等でも紹介され、今や全国からの見学ブームが続いている。

何度行っても、その雄大な風貌に胸のすく想いがする…？阿蘇。その外輪山の一角、熊本県と大分県の県境に位置する。人口一万あまりの盆地の町。

非常に牧歌的な農山村の雰囲気漂わし、まっすぐにのびる杉木立ちの間にたたくむ農村風景、何ともいえない幸せな気分させてくれる。さらに、小国人のの良さ、自然な対応が…、居心地のよいものであった。まさに、桃源郷

であるかのように…！

●悠木の地球宣言

21世紀の農山村

ライフの提案

21世紀にむけた新しい農山村の暮らしを模索し続ける『悠木の里づくり』。これまでの歩みを振り返りながら、小国町の進むべき方向を考えることが、これからの日本の農山村を考えることになるだろう…と今後の目標設定のためのシンポジウムであった。

第一セッションの問題提起からはじまり、農山村の『ライフスタイル・環境・生産・グローカリゼーション』のテーマごとに議論され、第四セッションの町長の『悠木地球宣言』で幕を閉じた。

※第二セッション「農山村のライフスタイル」より…

私の参加したこの分科会では、



から：『これからの農村は都市を越えることができ、さらに、世界との結びつきも持つことができる』
そのために
も生活者が
どんな視点
でこれから
のライフス
タイルを創
っていくの
か？そして、
町との関わ

農村には、
① 生態系に根ざしたヒューマンな生活が送れる

② 広いスペースとゆったりとした生活空間がある

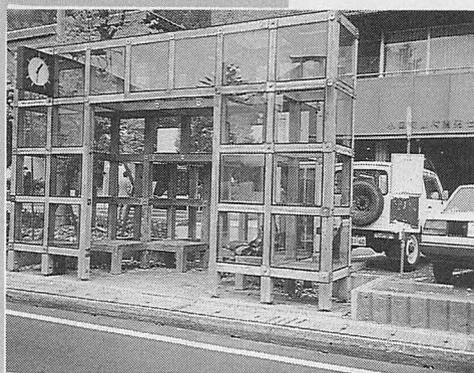
③ 濃密なコミュニティ
ニティーが
できる。

これらの条件

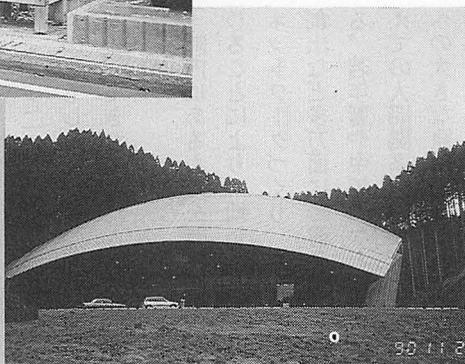
から：『これからの農村は都市を越えることができ、さらに、世界との結びつきも持つことができる』

りをどうもっていくのか…？
この辺りが、テーマとなり話が進められた。

ライフスタイルとは…地域の姿を知り、ストーリー性を創ることである。といった理屈的な話ばかりに留まらず、嫁問題にいたるまで生活じみた話で盛り上がった。



▼バス待合所



▲小国ドーム

地球宣言

総合センター

石川元英

悠木の

(財)愛媛県まちづくり

●小国町

まちかどウォッチング

シンポを抜け出し：『悠木の里づくり』がどれほど、まちかどの表情に現われているのかを…、また、超近代的な木造建築物（ゆうステーション・小国ドーム・



▲のどかですね!!

林業センター）が、どれほど農山林の風景に調和しているのかを：自分の足でまちかどウォッチングしてみた。

それにしても、近代的な建築物は面白く、ワクワクとするものがある。余計な心配だが掃除が大変だろうな。

まちかどの様子としては、町のあちこちに、小国杉・木の存在があることが目についた。木レンガの歩道や側溝蓋などや、バスのりばも奇抜なデザインの上に木がマッチしていたし、電話ボックスなども当然町の一つの顔のように…。

もの静かな町の風景のなかに：また、杉木立の間の奇抜なデザインの小国ドームがそれほど、不釣り合いじゃない。

とにかく、何とも表現のしようのない、愉しさがあふく新しい田舎・農山村の暮らしを創造しているようだ。

●雑感

今一度小さな国と書いて、小国町。



▶みよ!!この演出を……

今回の一泊二日の旅では、シン

ポジウムは、ともかくとして：

当然、『ゆうステーション』をはじめとする奇抜な木造建築物や杉木立に囲まれた牧歌的な農山村の風景がインパクト強く、脳裏に刻まれている。

が、それよりもなによりもシンポに関わっている実行委員、スタッフの面々が非常に若く、さらにその中でも女性スタッフが多いことが気になる。このように町を挙げて全国の人たちを招いて行うイベントの場合、当然体裁を整えるためにも、無難にまとめるためにも、

行政の頭の堅いおっさんたちがとり仕切り進められている。だが、小国町での二日間を通じて、会の司会進行を含めて裏方に至るまで若いエネルギーが血走っていた。さらに、行政だけの輪に留まらず、交流会を取り仕切った独身女性グループ「ヴィーナス」のように民間の人たち共々で作り上げられているシンポだと感じた。それによく応えるように、元気に動き廻っている、スタッフの面々も大したものである。

奇抜なハード施設だけじゃない21世紀を担う、若い人材づくりの妙が見られた。

後で、小耳に挟んだことだが、交流会の後に、若い実行委員たちと一緒に町長が同じように遅くまで、酒を酌み交わしはしゃいでいたそうだ。

くどいようだが：小さな国と書いて小国町。まさに一国≡逸国である。

益々、要注意が必要であろう！

地域自立をめざす「元気アップ」交流集会

(財)愛媛県まちづくり総合センター

山本幹男

はじめに

去る十一月十七日(土)、松山市祝谷の愛媛文教会館において、当センターが、昨年度から実施してきた「ふるさとコンサルティング事業」のフォローアップ事業として、「地域自立をめざす「元気アップ」交流集会」(当センター主催)を、県内各地から五十余名の参加をえて、和やかに開催しました。

以下、この交流集会の概況を中心に、若干の感想を交えながら、報告に代えさせていただきます。

ふるさと創生

昭和六十三年度に、国が主導した「自ら考え自ら行う地域づくり事業」、いわゆる「ふるさと創生一億円事業」がスタートし、県内においても、全国に先駆けて、県内

の市町村や民間事業者が行うふるさとづくりへの支援体制を整備するため、平成元年十月に「ふるさと推進条例」を制定しました。

そして、この一環として、ふるさとづくりのコンサルティングを必要とする市町村に、全国レベルの実践者を中心に、三人一組で派遣し、ふるさとづくりを支援する事業として、県では「ふるさとコンサルティング事業」を施策化し、それを当センターが受託し、実施することとなりました。

ふるさと

コンサルティング事業

このようなことで、この事業は平成元年十一月に始まりました。実施町村は、丹原町・関前村・小田町・三崎町・御荘町の五町村で、各町村毎に地域の若者を中心に、地元を受け入れ組織を作っていた

だき、毎月一回程度の勉強会や地域の特色を生かしたイベント等の活動を通じて、地域資源の発掘や地域課題の勉強を行い、適宜コンサルタントのアドバイスをいただきながら、より良いふるさとづくりを進めようと考えました。

それぞれの組織は、

丹原町―丹原若者塾

関前村―関前・海道21

小田町―さなぎ会

三崎町―さきがけ橘塾

御荘町―御荘とつぼ咲

と名付けられ、華々しくスタートを切りました。



小田町さなぎ会のメンバー

●ぬるま湯の蛙から、 「コップ」磨き集団へ

ふるさとづくりを進めるに当たっての起爆剤として、よく言われるものに「危機感」があります。

徳島県阿波町の井原まゆみさんは、以前こんな話をされました。「ぬるま湯につけた蛙は、その湯をだんだん熱くしていくと、知らず知らずのうちに死んでしまう。しかし、始めから熱い湯につけると、直ぐに飛び出す。」と。現状に満足し問題意識を持たずに暮らしていると、その地域は、だんだん活力がなくなり疲弊していく。ときには、強い刺激が大事であると。その刺激が熱湯であり、危機感なのだろうと思います。

また、当センターの元研究員の近藤誠さんは、地域づくり活動は「コップ磨き」の要領でと力説します。と言うのは、透明のコップは、内側だけ磨いていたのでは曇ってくる。外側からも磨かなければ、綺麗なままであり続けることはできないと。

つまり、地域内の自助努力だけでなく、地域外の人とのネットワークや情報交換を上手に組合せ、常に危機感とか問題意識を持ちながら、活動を続けることが大事であると言ふことだと思ひます。

● フォローアップ集会

前段が長くなりましたが、このような思ひを持ち、一年間地域に拘った活動を展開してきた結果を検証し、他町村の活動を参考にしながら、今後のさらなる取り組みの糧にしてほしいと、この集會を開催しました。

その内容については、以下のとおりです。

① 基調講演

「地域自立と若者の役割」

熊本県小国町木魂館館長

江藤 訓重さん

地域づくりは人づくりと言われが、このことにおいては、小国では「みらい塾」がある。最初は行政主導で町長が塾長で始まったが、面白くないと言ふことで、私が塾長になって、地域外との交流

の場を作つて交流と学習會を始めた。今は、三代目の塾長が、町内のネットワークづくりを進めている。現在二十八のグループがある。このグループは、みらい塾で知り合つた人が知り合つた仲間で、自分の興味のあることを、より現実的な形で町のいろんな人に対して、学習會を開くなどの仕掛ける機関になつて活動している。

次に、人づくりと言ふと、町民プランニングシステムがある。みらい塾に参加した人で、面白い人がいれば、このプランニングシステムに参画してもらっている。自分が主体となつて実践をしてもらい、自分の考えたことがすぐに実行できるので、若い有能な人をいかに良いシステムになつていく。

さらに、若者が地域で活動しやすい環境づくりを進める必要もある。自意識を高める仕掛けとして、活動の中で、一定の範囲は任せてしまうことも大事だし、外との交流も随時行ふ。また、若い女性が活躍する場を交えたり、町外のこれと言ふ人材に、町の応

援団になつてもらうような努力もしながら、人づくりや地域自立を目指している。



江藤 訓重さん

② 研究討議

事業実施五町村からの一年間の活動結果報告と、県内のふるさとコンサルタントからの最終アドバイス及び塾(会)としての今後の活動の方向について、決意表明をいただきました。

地域文化の保存伝承、地域イベントの創造、水に拘つた新たな取り組みの展開、自己啓発・住民啓発のシンポジウムの開催等、一年間の学習と実践から培つた地域自立への確かな胎動を感じました。

● 地域自立に向つて

地域の自立は、あくまでそこに

根をはつて遅く生きる人々の意識と行動力の成果に帰結すると思ひます。そこに、その地域の人々の生きざまに感動する域外の応援団を巻き込みながら、自分が主体となつた取り組みとして展開できうるかにあると思ひます。先出の江藤さんも「地域の自立には、外との関係が大事です。そのためには、その地域の中に、外の人が感動するものをどれだけ持っているかに関わってきます。来てもらえるものがないと、ダメだと思ひます。」と言われました。

このコンサルティング事業は、たった一年間でしたが、されど一年間でした。それぞれの地域の特性を生かして、真摯な活動を展開していただき、ご協力いただきました。新たな活動の動きもあり、頼もしい限りです。それぞれの村のさらなる飛躍を期待したいと思ひます。

何か道をやってくる…、まさに今の地域づくり運動にとって、ピッタリな情況表現ですよネ。何でもレイ・ブラッドベリーとかいう人のSF小説(大正九年)の題名で、アメリカのジャック・クレイトンが映画化(昭和五十八年)しているんだそうですが…。勿論、私は門外漢。湯布院の中谷健太郎さんが、『今、湯布院は…』と、地域に訴えられた表現なんです。

よしのずいから天覗く…。いろはかるたの例えから、「そりやーヤメとけ…」とI町のK兄が忠告。私も「そうだ…」と思う。

だが「今の湯布院は、全国の地域づくりが直面している…本質的な問題と、その最先端で斗っている。この斗い如何が…明日の地域づくりの姿だ…」と昂ぶった想いが、管見は承知!これを今考えねばと筆走りし始めました。

「みんな似たりよったりの何か…」

あれは、九月初めだったですかネ…。愛媛新聞が『潤いのある町づくり条例』をタイトルに、湯布院が全国一厳しい『環境条例』を作ったと報じましたが、それは、住居専用地域のリゾートマンションなどを、高さ一〇メートル以下、空地率六〇%以上に規制し、加えて六%以上の緑地と三%以上の公園広場の設置と

か、「環境整備協力金(三万〜一〇万円)」などを求める…等々の内容のようでした。

東京の土地代金でアメリカ全土が買えるとか…、その東京の土地資本・リゾート資本が湯布院に雪崩れ込んでくる。一反で米八俵／約十六万円の水田が、一反一億円・坪当り約三〇万円で買われるんだそうです。そして、千五百室のホテルやリゾート群が造られるとか…。ちなみに、今の由布院温泉の容量が約千五百室だそうですから大変なことです。しかも、ご存じのように…湯布院は、『自

地域づくりの学んで『年よもやま話』ノート

第六話／何か道をやってくる…話(1)

えひめ地域づくり研究会議

宮本俊一

発も、みんな似たりよったりだ…。そいつの全体を、みんなで眼をかつびらいて見てみようぜ…と、厳しく訴えられているんです。

「ビジョンは愉快なMOC計画で…」

中谷さんたちは…、何よりもまず、こうした情況に対して、町が主体的にとるべき「長期ビジョン」を示すとともに…、その「基本戦略」を三つのキーワードによって、現に地域の人たちが進めている町づくりの諸活動を意味づけながら、方向づけられています。

そのビジョンは、『バザール(市場)のある温泉リゾート村構想』です。湯布院は『ムラ』である。それも「リゾート村」とは、滞在型の保養ムラを言う。それを快適なものに育てあげてゆく構想だ…。そこに豊富な温泉が湧く。

そしてバザール(市場)がある…。滞在保養村だ。多様で、快適な滞在保養生活が、ムラの中に拡がってゆく…。それが湯布院では可能である。可能な唯一の温泉地と言っても良い。そこに湯布院の未来があり、子供たちの夢がある。…と説かれ、次のイメージを描かれます。

第一は、『ムラであるから農村文化と、それを支える景観、風景がある。それが地球的な都市化の中で、湯布院の評価を高める…』

然と農村を守る運動』をベースに、二十数年にわたる地域の人たちの努力を積み重ね、全国に知られる『文化立町』を進め…。今では年間三百万人の観光客を迎える…人口一万二千人の可愛い盆地の町なんですから…ネ。中谷さんは、そうした現象も含めて、今、『何か道をやってくる…』とSFもどきに捉えられたんでしょう…。それは何だかわけのわからない大津波か…、あるいは暴風風かもしれないが…、外から町を襲ってくる…。リゾート計画も、ふるさと創生も、観光開

と、その土台に腰をどっかと据えられます。

第二は、『リゾートであるから、滞在や保養に適した様々な愉しみが、盆地中に用意される。それが盆地に点在する中小の商観業をバラエティに富んだ、小味な暖かいものにする』と、村の性格と気風を描かれます。

そして第三に、「バザール(市場)があるから、文・物が移出入し、ムラが世界につながる。それがムラの消費文化を豊かにし、生産文化を活性化する…」と、その原理を簡潔に説かれます。(各文末は私の管見です：)

しかも、これを、M:MURA(ムラ・アムニティ)：農業。O:ONSEN(温泉リゾート)：観光。C:COMMUNITY(コミュニティ・バザール)：商業として、『MOC計画』に総括し、民間の業界が各々の立場で基本的な要望や試案をまとめ、町の『総合基本計画』(地方自治法第二条五項)に結びつけてゆく活動で、三業界が境界を越え相互に乗り入れをし、三者の間に「重ね合わせ」の総合計画ができる所がミソ…とか、愉快ですネ。

「湯布院は今、新しい大航海時代」

そこで、揭示される戦略キーワードの第一が…、湯布院は今、新しい『大航海時代』を迎えていると言われるんです…。あの十六世

紀から十七世紀にかけて、ヨーロッパが世界に交易地や植民地を求めた『大航海時代』…そのヨーロッパが、四百年前に豊後の国を襲ったんです。それはまるで、今の「何か…」と同じような…得体の知れない異文化だったんですネ。その時、大友宗麟をはじめ豊後の人たちは、これをどう迎え討ったか…。そこに、新しい可能性と対応を掴もうというのが…、この言葉の思想なんでしょうネ。

それも、地域の色々な人たちが、例の一億円で『世界を見てくる運動』とか…。これまで郷土料理中心にやってきた『食文化フェア』を、第七回・第八回と二カ年続けて「ザビエルがもたらしたもの…」と主題を改め、四百年前、スペイン人が豊後の国にもたらした異国料理が、地域の郷土食を創りだした姿をイベントし、食べものと農業の文化創造の関係を確かめる等々、地域の人たちが身近な「大航海時代」を味わってからの訴えです。

どんな変化の時代も過去なしに生きることができない…。過去の中に未来に適応しうる伝統を持つている場合に、「よりよく生きる」ことができる…。伝統は、たんに与えられたものではなく、つねにそれぞれの時代が、その時代の生き方によって選びとるものである…。(私が好きな山崎正和さんの言葉です。)

以下次号！

参考/抜粋引用図書

◆『風の計画』VOL4

湯布院企画室「西方館」発行

◆『地域開発』H2・7月

東京都「地域開発センター」発行

◆『シ・アース』VOL10

松山市「サムシング」発行

「一読を推薦します。」

広松伝・森俊介

『地域が動きたすとき』 宇根豊・渋谷忠男 著

宮本智恵子 著

(社)農山漁村文化協会発行

◆「まちづくり、むらづくりを、身の丈のところからはじめようとされている方々に…」これが編集者の言葉ですが、私は地域に係わる総ての人たちが、『地域再考』の資として欲しい…と願っています。

◆著者の五人は、環境、医療、食生活、農業、教育と、各々係わる専門領域が異なる地域の実践者である上、有名な運動者で寸暇もなく、殆ど初対面に近い。でも本物を追う者同士の響きあい…が、原理論や運動論・実践論の一端を覗かせ愉しくします。

◆私の理解では、この国の今日の価値観やライフスタイルに「本物はこうだ…」と実証例で迫り、地域づくり活動には、本気なら「原点から出直せ…」と、地域実践を科学した原理論で訴えていると思います。

まちセン

今昔物語... Part II

愛媛県信用農協連

井口 浩志



▶富山県利賀村
野外劇場にて

◆まちづくりとは？

「まちづくり・むらおこし」とは……？これが第三セクター方式で設立された「まちづくり総合センター」の初代出向職員を拝命した私に、最初に与えられた難問であった。

それから四年と半年……今だにスツキリと理解もできず、心のすみにモヤモヤしたものを抱えている私である。

宮本俊一前所長の言葉を借りれば、「まちづくりとは永遠のテーマである」とのこと。なんとなく納得した気持ちになる。

さて、まちづくり総合センターが設立された昭和六十一年当時は、まだ県内でも「町づくり、村おこし」という文字がそれほどマスコミをにぎわすこともなく、ましてや選挙公約にそういう言葉が極当り前に使われる時世ではなかったように思う。

言い換えれば当時は、大山町とか池田町、そして湯布院や横浜市など全国の先進市町村と言われるところがスポットライトをあびて

いた頃であり、私のように単純で純情無垢（これを無知と言う）な人間にとつては強烈なインパクトを与えてくれたのである。

また、今のように何を言っても言っても「まちづくり」と結びつけるという風潮は少なく、「町（地域）づくりの理論・戦略・戦術」を考える上では、理解しやすかったと思う（行動は伴わなかったが）。

◆苦痛の中から喜びが…全国行脚「アイデンティティ (Identity)」という舌を噛みそうな横文字の意味も分からないまま、「自分で本を読み勉強し、ここと思う所のこれだと思ふ人に会って来い」という宮本俊一先生の言葉にそそのかされ、山本均氏と宇都宮栄一氏、それに都築・田村女史との全国行脚が始まったのである。

この行脚の最初は、正直言って苦痛であった。

本を少し読みかじっただけで実践的体験も理屈もないまま、全国的地域づくりのイノベーターとい

われる大御所の方々に「研究員」という大層な肩書きの入った名刺を差し出し、質問ともいえない質問をし、ノートに書いたのは冷や汗ばかり。

しかし、この方々がもっている実践的戦略・気迫・熱意は、私を感動させずにはおかなかった。この感動こそ、二年足らずのセンターでの活動源であり、私の箱庭的人生感を大きく変えた源泉でもあった。

苦痛の中から喜びが（変な意味に取らないこと）……まさにその通りであったのです。

◆ネットワークングの大切さ

・A町役場A氏
「まちづくり総合センター？なぜそれは？」

・センター職員
「実は、県内地域づくりのお手伝いをするために今度設立された団体で……くどくど云々」

・A町役場A氏
「ああ、ああ、そう言えば県からそんな話があって、ようけなこと

金を負担したな」

・センター職員

「はあ、そうですね」

・A町役場A氏

「で、なんの用ですか。エッまちづくりのお手伝い？何ですかそれは。何やってくれるの」

…これが設立当初、全国行脚の感動を胸に県内の役場や団体・企業を訪問した時の会話である。

私は、出向前の仕事柄、県内の色々な地域を回り地理には明るい自信を持っていたが、前述した会話の後、「私は、今一体何処を走っているのだろうか？」と頭が混乱することしばしばであった。

しかし、いたのです、感動発信人が。愛媛のあちこちに。その感動発信人の応援と励ましのかいあって、様々な活動をしている人たちが、そして、様々な分野で悩みや疑問をもっている人たちを知り、その方々をネットワーキングできたことは、愛媛の地域づくりの一つのステップになったのではないかと思っている。

「あなたの活力源。それはネッ

トワーキングです！」…少し硬いなあ。

◆徹底議論から方向性が見える

「舞たうん」一九号で山本均氏が書いておられたように、私達はとにかく議論をよくやっていた。

その議論とは、決して相手をやり込めようとか自分の意見を押し付けようとかいう類いのものではなく、「何んできれややるのか」「何んのためにやるのか」「それは必要なのか」という根っ子の議論であったように思う。



利賀村郷土玩具館・中谷信一さんが収集

私のように頭の整理が苦手な人間にとって、この議論の中から自分なりの目的↓戦略↓戦術が生まれてきたのである。

例えば、議論の一つとして、『愛媛の地域づくりにとって、まちづくり総合センターの存在価値とは何か。組織体としてのセンターそのものに存在価値は無いが、有機的機能に存在価値があるとすると、それでは有機的機能を構築するために、私は何をどうすればいいのか』といったものがあつた。

この議論は、未だに私の頭の中に残っており、日常の仕事をする上で時々引っぱり出している。物事を実行(行動)する上で中途半端のままやっていると、行き詰まるのがよくあるという私の体験から理屈をこねた訳であります。

◆宝物の使い道？

センターに在る間に私は、随分と沢山の宝物を得ることができた。その宝物は、ちょっとやそっとで手に入るものではない。

しかし、最近その宝物を随分と重たく感じている。中々使わない(使えない?)から減らないのである。

前々からある農業団体のT先輩からネットワーキングづくりの話があつたが、先日やっと四人ばかりの集まりを持つことが出来た。焦らず、ぼちぼちと宝物の使い道を考えている今日この頃である。

◆終わりに

・岩城村の黒瀬さん、先日の産業文化まつりで何も買わなくてすみません。

・城川町農産物加工センターの木下さん、自然薯(山いも)を安く分けて頂きありがとうございます。…言ってもいいのかな。

・生名村の村上寛仁さん、遅くなりましたが小松光一氏の「おいら風こぞう」の発刊の件、乗ります。センターの皆さん、元気アップ！元気アップ！



4 / 25 岩手県花泉町居酒屋ぶら座にて
お世話になったものの、毒舌にはやられた。



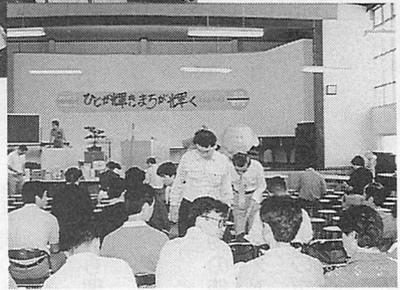
4 / 17 福島県棚倉町(女性町長全国で2名)

平成2年
赤公開スナツプ
あれ!
これ!

5 / 26 '90 まちづくりのつどい
今回は、井原まゆみさん主役



6 / 9 過疎逆の
集い。
山本主任参加。



6 / 24 (新宮村・あじさい祭) ミス・しんぐうかな。
あゆみちゃん誰れの子かな

柳川

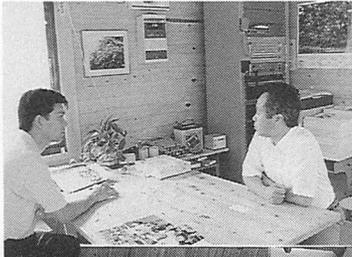


ウロウロしてバカリ。
6 / 23 守谷さん



らんだむ

7/24



高知県大川村
朝倉理事長と
山ちゃん二者会談

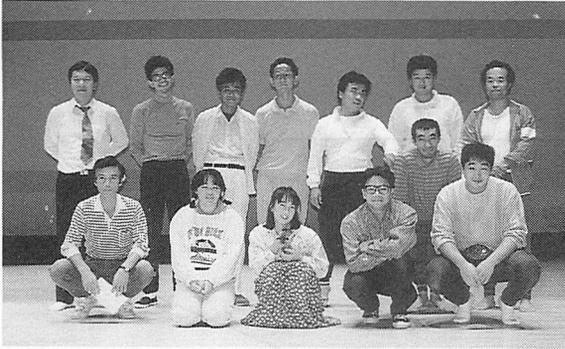
→ 7/3
宇和島十日戎
カラーで見たら、よりカワイイ！



10/13
熊本県小国町へ研修
小田町さなぎ会



↓スター街道上昇中!!くまっ子メンバー



11/17 中山上空 (ヘリコプター内)
ゲンちゃん、目が回っているのだ!

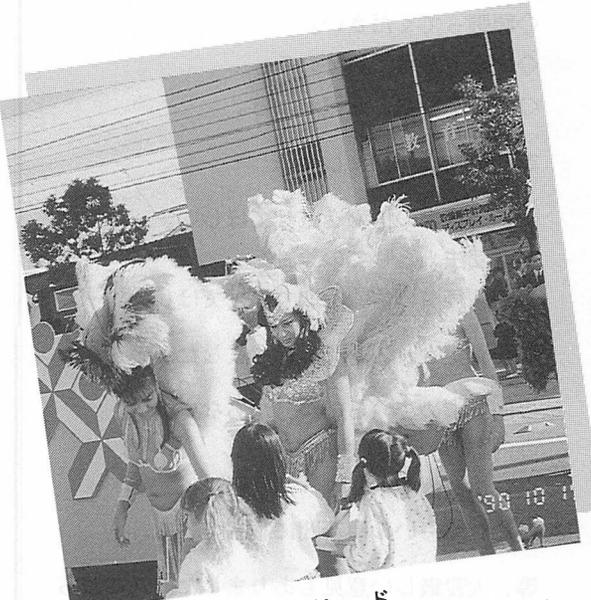


流石にルパン三世も
おつかれの様子。
いや、飲みすぎなのだ。

ふじ



12/1 交流研修 (茂木町) あたたかい歓迎でした。



11/19 県民文化祭パレード
おいそー。カメラマンがヘタで失礼!

皆さん覚えていますか?、18号で実施したアンケート調査。この調査は、あなたが今『まちづくり』に対して求めているモノ、興味あるコト、関心度等をチェックして、これからも皆さんの情報源として、より素晴らしく、より愛され、そして、より充実した『舞たうん』を目指そうと企画したものです。思い出しましたか?。

「ハガキを出した!」という人…あなたは『まちづくり』とか『舞たうん』に対して、かなり意識の高い人です。エライ!「そんなのあったかなア〜?」という人…表紙だけでなく、中身にも目を通しましょう。「知ってたけど出さなかった。」あるいは「忘れてた。」という人…もっと意識を高めましょう。

さあ鬼が出るか?蛇が出るか?集計の結果は次の通りです。

★回収率 3.6% (143通)

☆送付された「舞たうん」は

A、全部読む	43%
B、だいたい読む	48%
C、あまり読まない	8%
その他	1%

☆「舞たうん」で興味をもって読まれるコーナーを次の中からお選びください。(複数回答)

A、特集	102人
B、研修レポ	52人
C、REPORT	42人
D、MESSAGE	30人
E、研究会議NewsLetter	30人
F、その他	3人

☆これから先「舞たうん」ではどのような情報を紹介、充実させていけば良いと思いますか?(複数回答)

A、人	64人
B、グループ	38人
C、地域	91人
D、イベント	34人
E、その他	1人

「舞たうん」アンケート の報告です

☆「舞たうん」についての意見、感想

◇頑張ってください。

◇仕事上参考になっている。

◇これを読むと元気が出る。

等、激励もありました。

◇都市整備の情報を載せてほしい。

◇財団法人としての論説を…

◇地域経済の情報を取り上げてほしい。

等、希望される意見もありましたが…、

◇何を求めているのか分からない。

◇内容のレベルアップを。

◇寄集め的でポリシーがない。

◇これくらいの事新聞に載っている。

等、大変厳しい意見もありました。(これらの意見は、ほんの一部です。)

今回調査した結果で、皆さんの考えておられること、「舞たうん」に希望する事など、多少ですが見えてきたような気がします。が、まだまだ完全ではありません。

しかし、当センターとしましては、今回の調査結果を参考にしまして、少しでも皆さんの理想にかなえる「舞たうん」を目指して頑張っていくつもりです。ですから皆さん、これからも御意見・御希望をドシドシお寄せください。お待ちしております。

あっ、それと、今回のアンケート調査で御協力頂いた(極わずかな)皆さん大変有難うございました。今後の編集においてなかなか参考になりそうです。

それでは、次号の「舞たうん」に御期待ください。

(山ちゃん)

Town タウン
パソコン通信ネットワーク

広げましょう
ヒューマン
ネットワーク

Vol. 14

Human Communication & Network
ECCC
Ehime
Computer
Communication
Club

えひめコンピュータコミュニケーションクラブ

今回は、知ったかぶりの出来る
パソコン通信用語集とです。

これは専門用語集というよりも
パソコン通信の方言のようなもの
です。

◇ ◇ ◇

△ROM▽

Read Only Memberの略とい
われていますが、多分こじつけで
す。半導体で、読むことは出来て
も書き込みのできないものを指す
言葉からきたもので意味もその通
りの人になります。

△RAM▽

ROMの逆で読み書きする人を
指しています。

△(笑)▽

対談を印刷物にするとよく見か
けます。パソコン通信では、記号
を組み合せて、() のように表
すこともありす。ちなみに冷汗
を流しているのは、() のよ
うになります。

言葉のアクセントやニュアンス
を伝えるためにつける場合が、多
いようです。

△▽

中身がないのでなく▽や△のこ
とです。内容が誰をさすか解らな
いとき。或は誰かを指しておか
なければ成らないときに使います。
△おれ。なんて時は、独り言っ
てことになります。

△文頭の引用符▽▽

はい……これは、
Read Only Memberの略といわ
れていますが多分こじつけです。
半導体で読むように文頭につける
ことで、原文からの引用をしてい
ることを表します。

△シェアウェア▽

NET上に登録されていたり、
流通しているプログラムのうちに
は、一定期間の試用は無料である
が、それ以降も使い続ける場合、
寄付や代価を求めるものがあり、
一般にいわれるPDSと区別する
ためにこう呼ばれています。

◇ ◇ ◇

このあとは、ふりがなコーナー
です。

- ANK アンク
- ATOK エートック
- AWK アウク/オーク
- CAD キャド
- ECCC エック
- ESC エスケープシーケンス

GNU グニュー

- ISH イッシュ/イシ
- LHARC エルエイチアーク
- MIDI ミディー
- PKZIP ピーケージップ
- SASI サージ
- SCSI スカジー
- TEXT テフ/テック
- MODEM エックスモデム

以上三回に分けて色々取りそ
ろえたつもりですが、他にも一杯
「なんなんだこれ」はあると思い
ます。

そんな時には、どんどんボード
に書いてみてください。一番多く
の方が読んでいる喫茶TOWNや
技術関係ならワープロパソコン通
信ガイドなどのコーナーがありま
す。

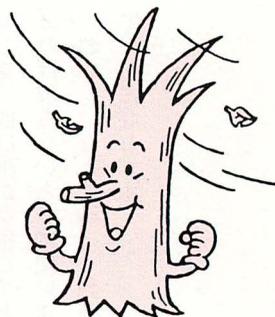
そして今日質問した貴方も、明
日貴方の答えられることを書けば、
TOWNタウンは無限のデータベ
スになります。

Poem Lobby

久万町 渡辺浩二

芸を究める ているか
演技を究める ているか
まつりを究める ているか
誌を究める ているか
男を究める ているか
美を究める ているか
イベントを究める ているか
青年を究める ているか
役職を究める ているか
世話を究める ているか
マネジメントを究める ているか
指導員を究める ているか
むらおこしを究める ているか
父を究める ているか
夫を究める ているか
家庭の温もりを究める ているか
万人の真実を究める ているか
この
まちづくりを究める ているか
君は夢を究める ているか
道を究める ているか
人間を究める ているか
私を究める ているか!!?
いや 人はつとめるだけである 愛あるかぎり

1990.10.24



「もういくつ寝るとお正月」
歳を重ねる毎に、この純な心はど
こへ……ちよっぴり寂しい気もす
るけど。
現実に還ると——、いい歳こい
て正月までを指折り数えていたの
では……。

さて第20号は、特に愛媛県にお
馴染の大森先生に巻頭言を飾って
戴きました。また、特集は厳しい
環境の中、信念をもち生き生きと
一次産業に従事されている方に登
場願いました。

内容についてのご意見や他に何
でも投稿をお寄せ下さい。お待ち
して下さす。

「舞・たうん」編集係

二人の新しいMs. (宇都宮・毛
利) まで。

〒七九〇 松山市道後一万一の二
（愛媛県松山市道後一万一の二）
（愛媛県松山市道後一万一の二）

総合センター

TEL

〇八九九(二五)五五五七

FAX

〇八九九(二五)六六八〇